

エコアクション21 環境活動レポート

平成26年度

対象期間 H26.4～H27.3



株式会社イー・アール・シー高城

作成日：平成27年9月1日

改定日：平成27年12月4日

目次

- 表紙

- 目次

- 環境方針

1. 組織の概要

2. 環境目標

3. 環境活動計画

4. 環境目標の実績

5. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並び

に違反、訴訟等の有無

7. 代表者による全体評価と見直しの実績

環境方針

<基本理念>

株式会社イー・アール・シー高城は、事業活動全般において、地球環境の保全を重視し、循環型社会形成を担う企業として、地域住民への安心・安全を提供し、環境に優しい社会の構築に全社員で積極的かつ継続的に取り組みます。

<方 針>

1. 当社に適用される環境関連の法規を遵守します。
2. 以下の項目を重点目標とし、業務を安全かつ、適正に行い環境負荷の低減に努めます。
 - (イ) 二酸化炭素排出量削減
 - (ロ) 廃棄物排出量削減
 - (ハ) 総排水量削減
 - (ニ) 化学物質使用量削減と適正処理
3. 環境目標及び、環境活動計画を定め、環境マネジメントシステムによる継続的活動に努めます。
4. 社会とのコミュニケーションを図り、地域社会との共生を目指します。
5. 全社員で活動できるよう周知し、またその教育を行い、環境保全意識の向上に努めます。
6. この活動全体の定期的な確認及び、見直しを実施致します。

以下の内容についてここに誓約いたします。

平成22年4月9日 制定

株式会社 イー・アール・シー高城

代表取締役



1. 組織の概要

- ◆会社名 株式会社イー・アール・シー高城
- ◆代表者名 代表取締役 八木 弓博
- ◆所在地 〒885-1312
宮崎県都城市高城町四家831番地5
- ◆環境管理責任者 豊久 志朗
- ◆EA21責任者 平野 豊
- ◆EA21事務局 小林 大悟 森岡 あゆみ
連絡先: TEL (0986) 53-9100
FAX (0986) 53-9111

- ◆創立 平成12年12月22日

- ◆事業内容 管理型最終処分場の運営(平成17年12月2日開業)
産業廃棄物処分業 特別管理産業廃棄物処分業
一般廃棄物処分業
汚染土壌処理業
産業廃棄物収集運搬業 特別管理産業廃棄物収集運搬業

- ◆事業の規模 資本金 450百万円
売上高 売上高区分B
従業員数 21人

管理型最終処分場【ERCエコセンター】

(設置許可 シレイ235-17-1 平成15年11月5日)

- ・敷地面積 26万㎡
- ・埋立容量 97万㎡(拡張分の50万㎡含む)
- ・埋立方式 サンドイッチ方式、セル方式
- ・遮水構造 二重遮水シート(5層構造)
- ・最終処分実績 平成26年度 47,854t 【別表一参照】

浸出水処理施設

- ・膜処理システムーDTモジュールユニット
(神鋼環境ソリューション設計・施工)
- ・浸出水調整槽 17,600㎡
- ・処理能力 140㎡/日

埋立車輛、収集運搬車輛、その他

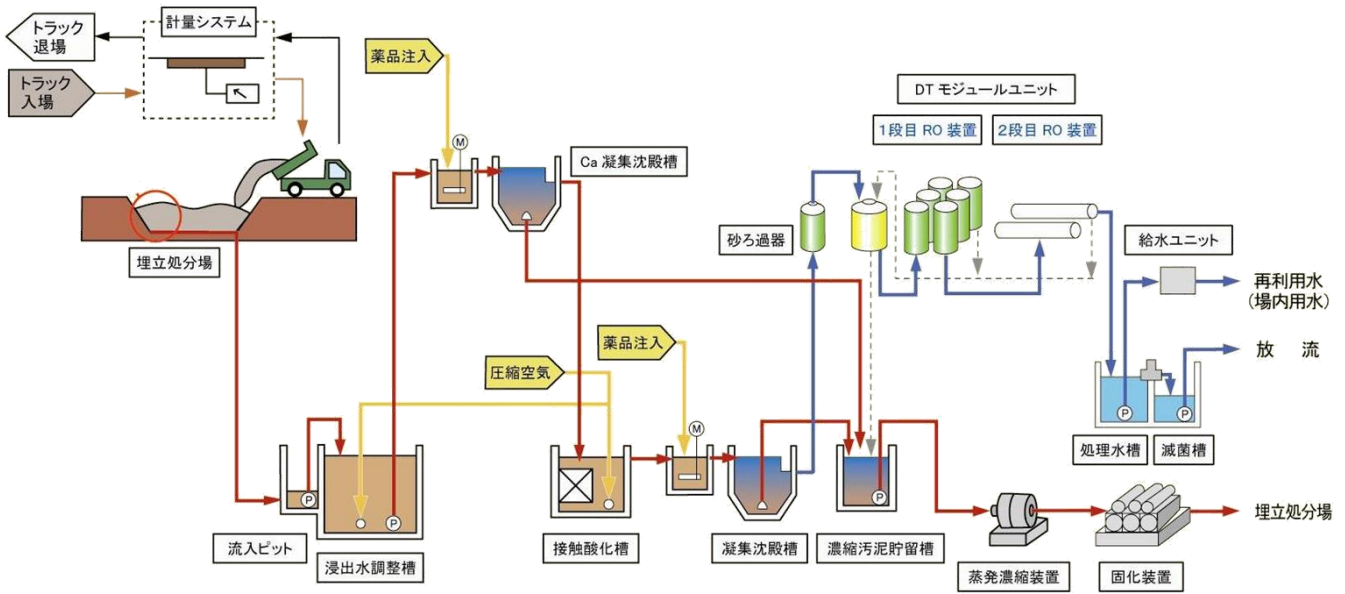
- ・バックホー 2台
- ・ホイールローダ 1台
- ・散水車 1台
- ・10トンダンプ 1台

管理棟(事務所) 298㎡

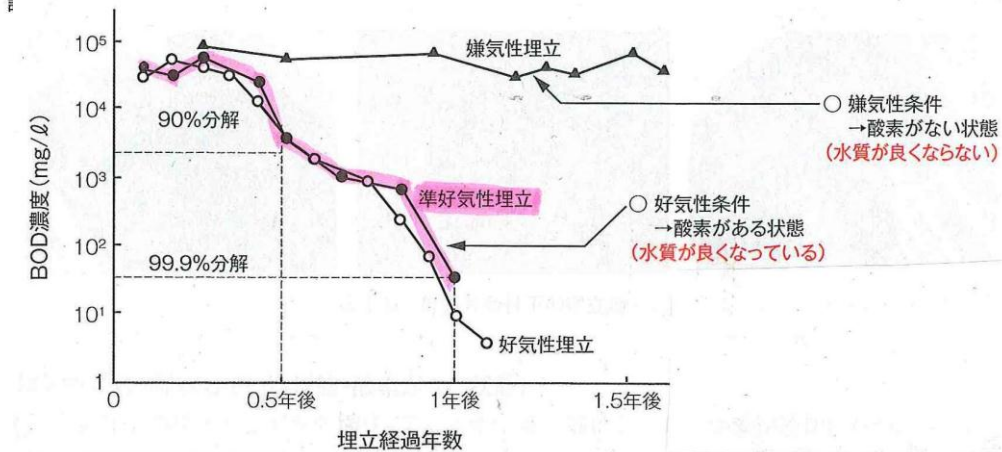
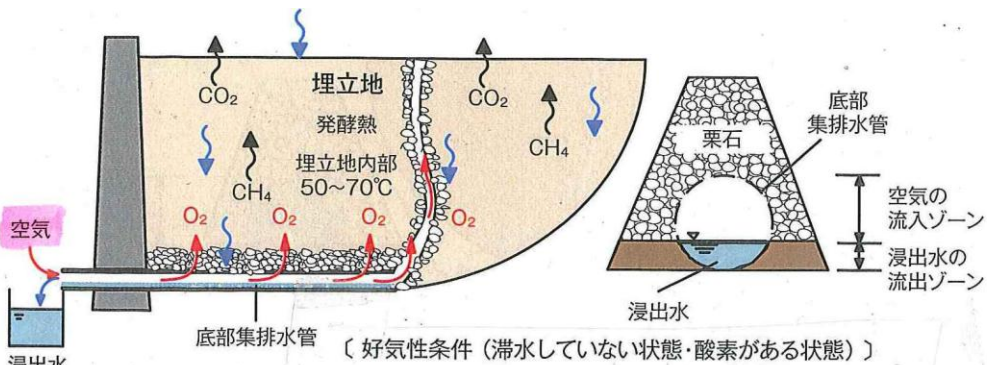
廃棄物処分料金

- ・別途協議により、お見積り致します。

◆処理施設のフロー図



◆準好気性埋立の仕組み



埋立実験による浸出水中のBOD濃度測定例

(出典: 産業廃棄物最終処分場の環境管理
発行: 社団法人全国産業廃棄物連合会)

◆許可及び登録の内容

●処分業許可

産業廃棄物処分業許可（平成22年10月25日 更新）

許可番号	宮崎県 第04533122537号
許可の種類	最終処分業(管理型埋立)
廃棄物種類	燃え殻、汚泥、廃油(タールピッチに限る。)、廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む。)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む。)、鋳さい、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)、ばいじん、13号廃棄物 以上15種類でこれらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。
許可期限	自 平成22年10月25日 至 平成27年10月24日（申請中）

特別管理産業廃棄物処分業許可（平成22年11月30日 更新）

許可番号	宮崎県 第04583122537号
許可の種類	最終処分業(管理型埋立)
廃棄物種類	廃石綿等 以上1種類
許可期限	自 平成22年11月30日 至 平成27年11月29日（申請中）

一般廃棄物処分業の許可（平成27年2月9日 更新）

許可番号	都城市 第11号
許可の種類	最終処分業(管理型埋立)
廃棄物種類	燃え殻、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動物若しくは植物に係る固形状の不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、コンクリートの破片その他これに類する不要物、ばいじん又はこれらの一般廃棄物を処分するために処理したものであってこれらの一般廃棄物に該当しないもの(特別管理一般廃棄物であるものを除く。)
許可期限	自 平成27年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

●汚染土壌処理業の許可

汚染土壌処理業の許可（平成24年2月6日 取得）		
許可番号	0450010001	
許可の種類	埋立処理施設	
汚染土壌の特定有害物質による汚染状態	受入れられる特定有害物質	第一種、第二種及び第三種特定有害物質
	受入れられる特定有害物質の汚染状態	第二溶出量基準以下とする。
許可期限	自 平成24年2月6日 至 平成29年2月5日	

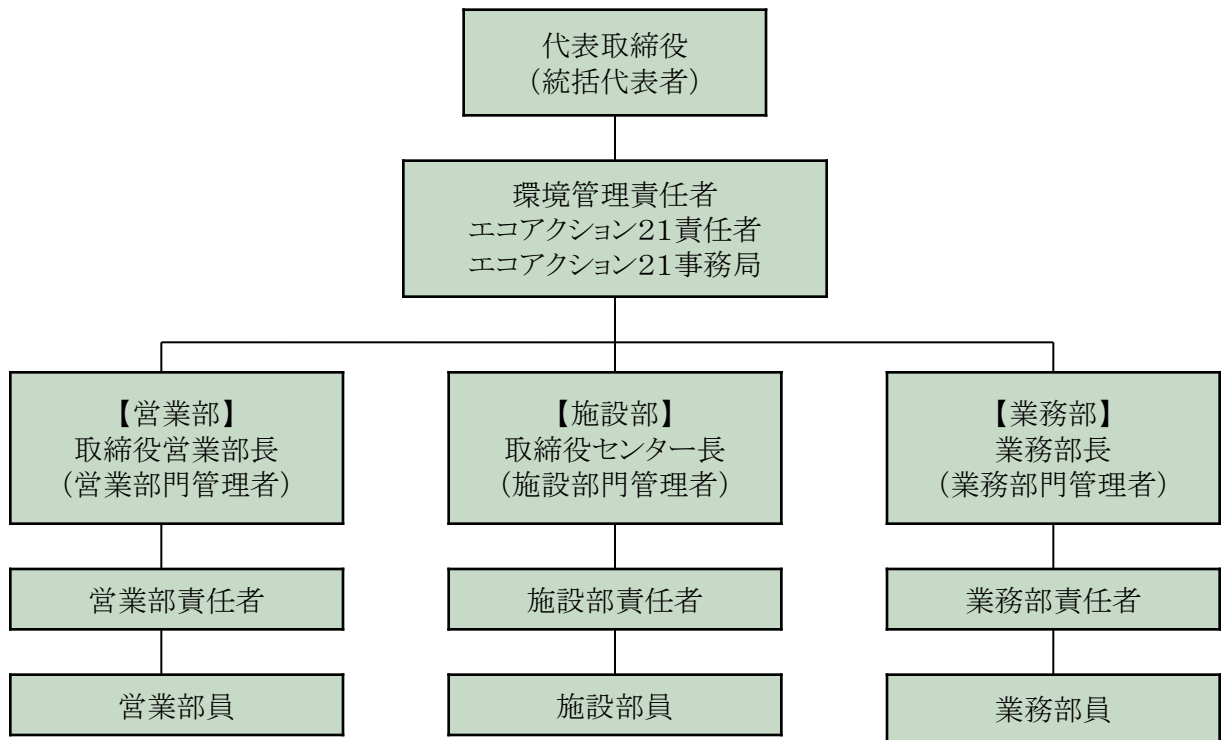
●産業廃棄物収集運搬業の許可

自治体名	許可番号	許可年月日	有効年月日
宮崎県	04503122537	平成23年12月01日	平成28年11月30日
	産業廃棄物の種類		
	燃え殻、汚泥、廃油（タールピッチに限る。）、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む。）、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む。）、ばいじん、13号廃棄物以上13種類でこれらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。		
鹿児島県	許可番号	許可年月日	有効年月日
	04608122537	平成23年12月04日	平成28年12月03日
	産業廃棄物の種類		
	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含み、農業用廃ビニールを除く。）ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む。）、燃え殻、汚泥、廃油（タールピッチに限る。）、ばいじん、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、13号廃棄物 以上13種類（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		

自治体名	許可番号	許可年月日	有効年月日
福岡県	04000122537	平成27年01月20日	平成32年01月19日
	産業廃棄物の種類		
	廃プラスチック類(農業用廃ビニールを除く。)、金属くず、ガラスくず等(以上3品目については自動車等破砕物を含む。)、燃え殻、汚泥、廃油(タールピッチに限る。)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、ばいじん、政令第2条第13号廃棄物(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず等については石綿含有産業廃棄物を含む。)		
熊本県	許可番号	許可年月日	有効年月日
	04305122537	平成26年11月26日	平成31年11月25日
	産業廃棄物の種類		
	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん、燃え殻、汚泥、廃油(タールピッチに限る。)、廃プラスチック類(農業用廃ビニールを除く。)、13号廃棄物(これらのうち自動車等破砕物を含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)		

●特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可

自治体名	許可番号	許可年月日	有効年月日
宮崎県	04553122537	平成23年12月01日	平成28年11月30日
	特別産業廃棄物の種類		
	廃石綿等 以上1種類		
鹿児島県	許可番号	許可年月日	有効年月日
	04658122537	平成23年12月04日	平成28年12月03日
	特別産業廃棄物の種類		
	廃石綿等 以上1種類		



担 当	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針及び環境活動計画の決定及び改正。 エコアクション21の環境活動の実施・管理に必要な人員・設備・費用の準備。 エコアクション21全体の承認・評価・見直し。
環境管理責任者 エコアクション21責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針、環境目標及び環境活動計画の周知。 エコアクション21の環境マネジメントシステムの構築、運用、維持。 環境活動レポート等の関係書類の確認。 各部署への運用指示及び運用状況の把握。 運用状況と実績を代表者へ報告。
エコアクション21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動の実績の集計・記録。 環境目標及び環境活動計画の原案の作成。 環境活動レポートの作成。 環境関連法規の取りまとめ、定期的な内容確認、遵守状況確認。
各部門別管理者	<ul style="list-style-type: none"> 各部署のエコアクション21活動のリーダー。 各部署の環境目標、環境活動計画の周知、実施及び状況の確認、記録、報告。
営業部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 営業車のガソリン使用量の削減策の立案、実施、指導。
施設部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 処分施設における環境負荷削減策の立案、実施、指導。
業務部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 管理棟における環境負荷削減策の立案、実施、指導。

2. 環境目標

項目		基準値	環境目標値 平成26年度
☆二酸化炭素排出量 【kg-CO ₂ 】		【293,330】	基準値-2% 【287,130】
電力使用量 (kWh/年) 【CO ₂ /年】	①処理棟	168,000	基準値-1% 166,320
		【100,632】	【99,626】
	②管理棟	49,000	基準値-1% 48,510
		【29,351】	【29,057】
③ガソリン使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		18,700	基準値-3% 18,139
		【43,415】	【42,113】
④軽油使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		45,700	基準値-3% 44,329
		【119,932】	【116,334】
⑤上水道使用量 (m ³ /年)		400	基準値-1% 396
⑥廃棄物排出量 (t/年)		1未満	*活動計画を参照
⑦化学物質使用量 (t/年)		H25年度 7.187	*活動計画を参照
⑧受託した廃棄物処分量 (t/年)		H25年度 48,000	*活動計画を参照
⑧'受託した収集運搬量 (t/年)		H25年度 0	*活動計画を参照
⑨グリーン購入		購入	*活動計画を参照

* 基準値は原則として過去3年間の平均値としています。

3. 環境活動計画

環境活動計画	
CO2排出量を削減する	
電気使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・処分場の雨水対策。シートを用い埋立区画の養生を行うことで雨水を排除。これにより浸出水を減らし、水処理の電力使用量を削減。 ・準好気性埋立の実施。埋立した廃棄物内を好気性に保つことで、浸出水(原水)の水質レベルが向上し、水処理の電力使用量を削減。 ・管理棟内の節電。消灯・減灯の実施。エアコンのエコ運転(夏季26～28℃、冬季20～22℃)。事務所内でのクールビズ・ウォームビズの実施。夏季のグリーンカーテンの設置。省エネ製品への転換の検討。
ガソリン使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・社有車のガソリン使用量をデータ化、使用者の意識向上に努める。エコドライブの実施により、ガソリン使用量を削減。 ・低燃費車・ハイブリッドカーへの転換の検討。
軽油使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・重機、収集運搬車のエコ運転、エコドライブの実施により軽油使用量を削減。低燃費重機へ転換の検討。
上水道使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の実施。蛇口がある場所に節水の呼びかけを掲示し、節水意識を向上。 ・洗車時の節水に努める。
廃棄物排出量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物再資源化に取り組む。分別、リサイクル。 ・廃棄物が出ない物品の購入に努める。
化学物質の適正使用・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品の購入量を管理、法規制を遵守した適正使用を実施。水質分析の実施、結果の管理。
受託した産業廃棄物の適正処分	<ul style="list-style-type: none"> ・処理基準、マニフェストの処理・保管等の法を遵守した廃棄物の受入。 ・粉じん、騒音、振動、悪臭などを発生させない処分方法の実施。 ・法を遵守した収集運搬の実施。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・環境物品、リサイクル物品のリストを作成し、購入に努める。

4. 環境目標の実績

		基準値	環境目標値 平成26年度	実績値 平成26年度	評価
☆二酸化炭素排出量 【kg-CO ₂ 】		【293,330】	基準値-2% 【287,130】	目標値-10% 【259,746】	○
電力使用量 (kWh/年) 【CO ₂ /年】	①処理棟	168,000	基準値-1% 166,320	目標値+5% 174,728	×
		【100,632】	【99,626】	【107,808】	
	②管理棟	49,000	基準値-1% 48,510	目標値+2% 49,288	×
		【29,351】	【29,057】	【30,411】	
③ガソリン使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		18,700	基準値-3% 18,139	目標値-41% 10,632	○
		【43,415】	【42,113】	【24,684】	
④軽油使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		45,700	基準値-3% 44,329	目標値-17% 36,902	○
		【119,932】	【116,334】	【96,843】	
⑤上水道使用量 (m ³ /年)		400	基準値-1% 396	目標値+1% 399	×
⑥廃棄物排出量 (t/年)		1未満	*活動計画を参照		
⑦化学物質使用量 (t/年)		H25年度 7.187		13.403	×
⑧受託した廃棄物処分量 (t/年)		H25年度 48,000		47,854	-
⑧'受託した収集運搬量 (t/年)		H25年度 0		7.74	-
⑨グリーン購入		購入	*活動計画を参照		

注) 電気二酸化炭素排出係数について
 基準値、目標値は平成24年度 0.599 (kg-CO₂/kWh)
 実績値は平成25年度0.617 (kg-CO₂/kWh)
 共に、九州電力(株)発表を引用

5.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

◆環境活動計画の取組結果とその評価

☆二酸化炭素の総排出量は目標値に対し10%の減。電力使用量、上水道使用量、化学物質使用量は増加したが、ガソリン使用量、軽油使用量、その他は削減することができた。特に、長距離走行をする高燃費車両の廃車によりガソリン使用量が減少した。また、重機及び運搬車両のエコドライブによる軽油使用量削減が効果的であった。

- ① 水処理施設の電力使用量は目標値に対し5%の増であった。シートによる雨水養生を継続し行い、雨水を排除、浸出水の削減に努めたが、降雨量が昨年より多かったため水処理量が増え電力使用量が増えた。デマンド計を設置し電力使用量を意識するようにし削減に努めた。
今後も適切なシートによる雨水養生を継続し電力使用量削減に努めたい。
- ② 管理棟の電力使用量は目標値に対し2%の増であった。通年でのエアコンの適正温度使用、定期的なフィルター洗浄、事務所内でのクールビズ・ウォームビズの実施、夏季にはグリーンカーテンの設置など、社員が意識的に節電に取り組んだ。
今後は省エネ商品の購入も検討したい。
- ③ ガソリン使用量は目標値に対し41%減を達成。使用者がエコドライブを心掛け、効率的に使用し達成できた。また、長距離走行をする高燃費車両の廃車の影響も大きく貢献している。
今後も、エコドライブを継続。車両入替時のエコカーの導入を促進中。
- ④ 軽油使用量は目標値に対し17%減を達成。重機及び収集運搬車のエコドライブ、効率的使用が効果的であったと考えられる。
今後も、エコドライブを継続したい。
- ⑤ 上水使用量は目標値に対し1%増であった。管理棟内の節水の実施。蛇口付近への節水を呼び掛け掲示による意識向上に努めた。
今後も継続して取り組みたい。
- ⑥ 廃棄物は、新聞紙・ペットボトル等のリサイクル可能なものをすべて分別収集し、リサイクルすることが出来た。
今後も分別、リサイクルに取り組みたい。
- ⑦ 化学物質使用量は13.403tであった。化学物質は、適正使用・管理されている。
- ⑧、⑧' 受託した廃棄物の処分量47,854t、収集運搬量1.15tであった。廃掃法に基づき適正に受託、埋立処分を行った。
- ⑨ グリーン購入は、平成26年度はエコマークの商品、グリーン購入法適合マーク商品等を購入した。
今後も更にリサイクル商品、再利用可能な製品等の購入に努めたい。

◆次年度の取組内容

二酸化炭素排出量は、事業の推移に伴って増加。各項目の二酸化炭素排出量基準値の合計を年間基準値とし、環境目標値は各項目の目標値の合計より2%削減を目標値とした。各環境活動を実施し、二酸化炭素排出量削減に取り組む。

		基準値	環境目標値 平成27年度	環境目標値			
				平成28年度	平成29年度	平成30年度	
☆二酸化炭素排出量 【kg-CO ₂ 】		【267,354】	基準値-2% 【262,075】	前年度比 2%減	前年度比 2%減	前年度比 2%減	
電力使用量(kWh/ 年) 【CO ₂ /年】	①処理棟	173,000	基準値-1% 171,270	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減	
		【106,741】	【105,674】				
	②管理棟	49,000	基準値-1% 48,510	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減	
		【30,233】	【29,931】				
	③ガンリン使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		12,300	基準値-3% 11,931	前年度比 3%減	前年度比 3%減	前年度比 3%減
			【28,556】	【27,700】			
④軽油使用量 (ℓ/年) 【CO ₂ /年】		38,800	基準値-3% 37,636	前年度比 3%減	前年度比 3%減	前年度比 3%減	
		【101,824】	【98,770】				
⑤上水道使用量 (m ³ /年)		430	基準値-1% 426	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減	
⑥廃棄物排出量 (t/年)		1未満	※活動計画を参照。				
⑦化学物質使用量 (t/年)		H26年度 13.403	※活動計画を参照。				
⑧受託した廃棄物処分量 (t/年)		H26年度 47,854	※活動計画を参照。				
⑧'受託した収集運搬量 (t/年)		H26年度 1.15	※活動計画を参照。				
⑨グリーン購入		購入	※活動計画を参照。				

①過去3年間の平均より基準値を173,000(kWh)とし、1%削減を目標値とする。

②過去3年間の平均より基準値を49,000(kWh)をとし、1%削減を目標値とする。

③過去3年間の平均より基準値を12,300(ℓ)とし、3%削減を目標値とする。

④過去3年間の平均より基準値を38,800(ℓ)とし、3%削減を目標値とする。

⑤過去3年間の平均より基準値を430(m³)とし、1%削減を目標値とする。

⑥廃棄物の分別に取り組み、分別後にリサイクル可能なものは100%リサイクルを目指す。

⑦化学物質の使用量を毎月記録し、適正な使用・管理を継続する。水処理施設にて使用している化学物質は過去に大気・土壌・公共水域への排出はない。

⑧、⑧' 受託した産業廃棄物は、処分基準を遵守し、当管理型埋立処分場にて適正処分する。産業廃棄物の収集運搬は、法規制を遵守し、環境に配慮したエコドライブを実施し、適正に収集運搬する。

⑨グリーン購入法に基づき、エコマーク商品等のリストを作成し、グリーン購入、その他環境物品の購入に努める。

6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法規(名称)	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物処理業及び処理施設に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •業の許可(更新5年毎) •廃棄物の受入基準の遵守 •廃棄物の埋立処分の基準の遵守 •マニフェストの処理、管理義務の遵守 	遵法
土壌汚染対策法	汚染土壌処理施設に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •業の許可(更新5年毎) •汚染土壌の受入基準の遵守 •汚染土壌の埋立処分基準の遵守 •管理票の処理、管理義務の遵守 	遵法
大気汚染防止法 騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	産業廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •大気汚染、粉じんの防止 •騒音、振動、悪臭の防止 	遵法 <ul style="list-style-type: none"> •平成25年8月に生活環境影響調査を実施、問題なし。 •測定が必要な特定施設ではなく、また近隣からの指摘等もない。
浄化槽法	年1回法定検査。検査書の保管。	遵法
道路運送車両法	環境保全上の基準の遵守	遵法
グリーン購入法	出来る限り環境物品(エコマーク付事務用品)の購入に努める。	遵法

◆法規改訂確認

確認日 平成27年 3月 2日 確認者 平野 豊

承認日 平成27年 3月 2日 承認者 加治 正廣

◆遵守状況の確認・評価及び違反・訴訟等の有無

- 環境関連法規の違反はありません。
- 関連当局による指摘・訴訟等はありません。

◆外部からの苦情の受付結果(過去5年間)

- 苦情・・・2件
- ①社有地より苦情者の敷地に木の根が侵入(平成22年2月1日)。
⇒(対応)侵入防止の対処、木の伐採を実施した。
- ②社有地と町道の境の草が通行の妨げになる(平成22年7月27日)。
⇒(対応)草刈りを実施、以後必要に応じて実施している。

7.代表者による全体評価と見直しの実績

作成日	平成27年 8月31日
-----	-------------

	見直しに必要な情報	代表者による全体評価	代表者の指示
環境方針	① 環境方針に示された環境への取組の基本的な方向性は適切か？ ② 環境方針が実行されEA21全体の取組は効果的か？	わが社の事業活動において環境へ悪い影響を及ぼすことなく、方針に基づき取り組んでおり、環境に対する負荷の軽減に繋がっている。	弊社の「安全・安心と3つの誓い」を社員に周知するように指示した。
環境目標・環境活動計画	① 環境目標、環境活動計画状況は妥当か？ 二酸化炭素排出量削減（省エネルギー） 上水道使用量（節水） 廃棄物排出量（リサイクル） 化学物質購入量と適正使用 受託した廃棄物最終処分量及び、適正処理 グリーン購入の推進 その他の項目	環境活動計画に基づき、全従業員が環境負荷を意識して取り組み、二酸化炭素総排出量の削減に繋がっている。	二酸化炭素総排出量のさらなる削減を指示した。
その他の環境経営システム	環境負荷に大きな変化はないか 環境関連法規等の遵守状況 実施体制は効果的か 教育訓練は実施されているか 外部からの苦情や要望はないか 実施及び運用は適切か 緊急事態の準備と訓練は適切か 取組状況の確認は適切か	環境に対する負荷の変化もなく、関連法規・条例の改正を確認し、活動の取り組みを適切に実施できている。社員に対しても、朝礼等を活用し報告・周知を行っている。	維持継続すること。特に、環境関連法規の変更・更新には十分注意することを指示した。

II. 前回の指示への取組結果

	前回の代表者からの指示	前回の指示への取組結果
環境方針	弊社「安全・安心と3つの誓い」を社員に周知する。	朝礼等、環境方針を掲示し社員への周知を図った。
環境目標・環境活動計画	二酸化炭素排出量のさらなる削減の方法を考える。	デマンド計を設置し電力使用量の削減に努めた。
その他の環境経営システム	継続維持すること。 特に、環境関連法規の変更・更新には十分に注意すること。	関連法規・条例の改正を確認し、遵法に努めた。

株式会社イー・アール・シー高城

代表取締役

八木 弓博

(平成27年6月29日就任)